

コラム④ 介護している家族の方へ

【接し方のポイント】

認知症の症状は、その人の価値観や背景によって異なります。本人の気持ちやペースに合わせて、出来る範囲で焦らず、時には人に頼りつつ接しましょう。

① 財布を盗られた!



自分が無くしたことを忘れて「盗まれた」と思いこんでしまうことがあります。否定はせず、不安な気持ちを共有して一緒に探しましょう。本人に見つけてもらい、一緒に喜ぶことで安心に繋がる場合があります。

② あなたはどなた?



身近な人を忘れたり、自分の両親や恩師など他人と間違えてしまうことがあります。無理に正さずに、その人物になりきって返答すると、安心に繋がる場合があります。

③ 今日は何月何日?



「時間や場所を正しく認識できているか」という不安から何度も尋ねることがあります。「何度も聞かないで」など、怒ることなく、見やすい場所にメモを置くなど、不安を和らげる方法を考えてみましょう。

④ (食事したのに) ご飯はまだ?



食事をしたことを忘れてしまうことがあります。本人の思いに合わせて「今、用意して来るね」としばらく台所に立ったり、「お茶を飲んで待っていて」など声をかけると納得して、安心してもらえる場合があります。

⑤ 誰かに狙われている



実際には存在しないものが見えたり、感じたりすることがあります。周囲の人には理解できなくても、本人は不安や恐怖を感じています。否定はせずに、追い払うふりをしたり、寄り添って不安を和らげましょう。

【行方がわからなくなったら】

① 110番、警察に届け出



警察に相談し、行方不明届を出して捜索を依頼する。
「本人の写真」や、「身長などの身体的特徴」、「昔住んでいた場所などの行きそうな場所」「愛称や仕草など本人確認できる情報」があると探しやすいことがあります。

② おとしより保健福祉センターに連絡

(月～土曜 午前9時～午後5時)

※上記以外は翌営業日に対応となります。



おとしより保健福祉センターが、

- ・区内の全おとしより相談センターと情報連携
- ・「東京都行方不明認知症等情報共有サイト」に行方不明者の情報を登録することにより、都内の他の区市町村に情報提供します。また、家族などからの希望により、警視庁や近隣県に情報提供します。